

日本の英知結集！線刻画移設へ…

発掘新聞

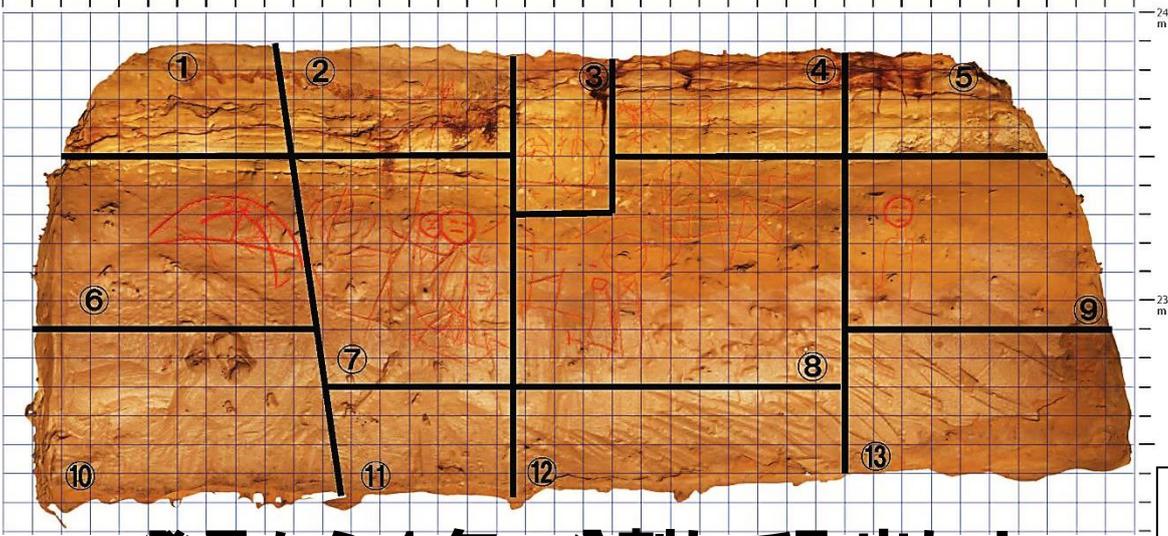
7月20日号

平成28年度第2号

編集・発行

九州歴史資料館

電話 0942-75-9575



発見から1年、分割して取出し！

数字の順番に分割し、切り出しを行った（目盛は10cm四方）

岩盤が固いシルト質と軟弱な砂層の両方を含むことから、従来の樹脂ではうまく固めることが出来ず、壁面を固めるために50パタンほどの薬剤を試し、さらに取り出す方法・支持具の形状などを検討し、8ヶ月かけて試験移設を

成功させた。昨年度から宮城県山元町に派遣されている城門記者が現地の最新状況をレポートする。

昨年5月に合戦原遺跡で見つかった線刻画が先日移設された。「線刻画」は、「人」や「鳥」などの絵が刻まれており、発見当初から国内の有識者を始め多くの人から関心を寄せられていた。

町では、現地保存も検討したものの、被災者のための移転地から発見されたことなどから移設をすすめる方向で検討を重ねてきた。文化庁や奈良文化財研究所など、日本屈指の専門家を交えて、10回以上の検討会や実験を重ねようやく5月～6月に移設作業が実施された。

岩盤が固いシルト質と軟弱な砂層の両方を含むことから、従来の樹脂ではうまく固めることが出来ず、壁面を固めるために50パタンほどの薬剤を試し、さらに取り出す方法・支持具の形状などを検討し、8ヶ月かけて試験移設を



昨年度から宮城県山元町に派遣されている城門記者が現地の最新状況をレポートする。



表面の養生



ウレタンで支持具を表面に設置



裏面を掘削



1つずつ箱に入れ、ウレタンで包み運搬

成功させた。最終的には壁面のある面をウレタンなどで養生し、裏側を掘削することで、厚さ20センチほどのブロックで切り出していった。一部亀裂なども入ったものの大きな崩れはなく、無事6月初旬に京都へと旅立っていった。今後は分割したブロックを組み合わせるなど、展示に向けた作業を進めていく予定だ。

「このような難しい条件での移設は全国的にも例がないと言いつ、町では見つかった「宝」を復興のシンボルにすべく2017年度に町の歴史民俗資料館での公開を目指している。」

（城門特派員）

【掘削のヒミツ兵器！】 今回の移設に際しては、使う道具の検討も繰り返し返された。当初はグラインダーや大型のディスクカッターを使ったり、電動ハンマーを用いたりして裏側を掘削していた。しかし、シルト質の部分が意外に固く、ぶれてしまったため、振動で割れたりなどしてうまくいかなかった。

そこで、登場したのが電気式のチェーンソー。振動もなくて軽く、ガソリンではなく充電式で安全なため、作業が大幅に楽になり、無事切り出せた一因となった。

成功させた。最終的には壁面のある面をウレタンなどで養生し、裏側を掘削することで、厚さ20センチほどのブロックで切り出していった。一部亀裂なども入ったものの大きな崩れはなく、無事6月初旬に京都へと旅立っていった。今後は分割したブロックを組み合わせるなど、展示に向けた作業を進めていく予定だ。

「このような難しい条件での移設は全国的にも例がないと言いつ、町では見つかった「宝」を復興のシンボルにすべく2017年度に町の歴史民俗資料館での公開を目指している。」

（城門特派員）